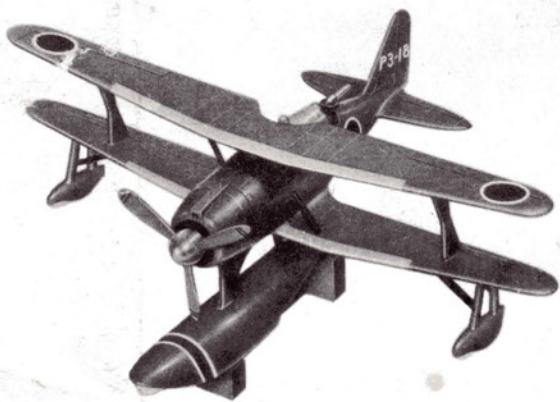


零式水上観測機 (F1M2)



■零観について

戦艦、巡洋艦等のカタパルトから発射して、艦隊の高空弾着観測と非常の際には実戦も出来ることを目的として昭和13年に完成。昭和15年に制式採用された海軍で設計された最後の複葉機であったが、此の機のもては世界で最も近代的にまとまったスタイルをしていた。本機は優れた実戦性能と上昇力で太平洋戦争での活躍は目覚しく、艦載機としてだけでなく、北方、南方水上基地からも出撃して観測、銃爆撃に活躍し、空戦で敵機を撃墜することも度々あった。昭和19年3月までに525機も生産された。海軍試作名、10試水上観測機(F1M)2、一般構造、単発、複葉、単フロート、水上機、真鍮製骨組、羽弁張り、スプリット、フラップ付、胴体、前半部は鋼管溶接骨組、風板張り、後半部は軽金属製モノコック構造、軽金属フロート、乗員2名。

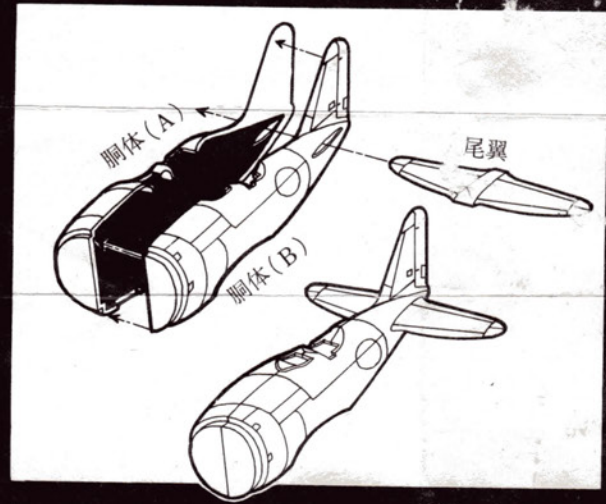


●組立て順序

先づ組立てを始める前によく説明図をよく見て各部品が全部揃っているか確かめ、失くさないようにして下さい。尚部品をランナー(枝)から切りはなす時は手で無理に取らないでニッパー又はハサミで丁寧に切り取って下さい。

- ① 胴体(A)(B)を接着し、尾翼を胴体の尾翼穴に通し接着します。
- ② カウリングにプロペラシャフトを通し、ペラ止めて接着して下さい。プロペラは廻るようになっていきますのでカウリングに接着しないように注意して下さい。
- ③ フロート(小)を2組接着して下さい。
- ④ フロート(大)のA、Bを接着し、フロート上部支柱穴に支柱(A)(B)を接着して下さい。
- ⑤ 1. 胴体にプロペラを取付けたカウリングを接着、2. 胴体下面に主翼(下)を接着、3. フロート(大)を取付穴に接着、4. フロート(小)を接着し支柱を接着、5. パイロットを接着、6. 風防前、後、接着、7. 双眼鏡及機銃を接着、8. 主翼支柱を接着、9. 主翼(上)を主翼支柱にはめ込み接着、10. N型主翼支柱を接着。

以上順序通り組立て、下さい。転写マークは完成写真又は箱の絵を見して下さい。



■零観の要目

発動機	瑞星13型、空冷式複列星型14気筒、公称出力 800馬力、最大出力 875馬力、3翅可変ピッチプロペラ。
全長	11.00m
全高	9.50m
全備重量	4.00m
最大速度	2,550kg
航続距離	370km/h
武装	1,000km
	胴体前方 固定 7.7mm銃×2
	胴体後上方 旋回 7.7銃×1

